



株式会社田中化学研究所

2015年3月期 決算説明会
2015年5月18日

Tanaka Chemical Corporation

目次

1. 決算ハイライト
2. 2015年3月期のトピックス
3. 製品別販売数量推移
4. 営業外収支および特別損益
5. 特別損失（減損）の実施
6. キャッシュフロー計算書
7. 比較貸借対照表
8. 2016年3月期予想
9. 製品別販売数量推移予想
10. 2016年3月期業績予想の補足説明
11. 主原料国際価格推移

決算ハイライト

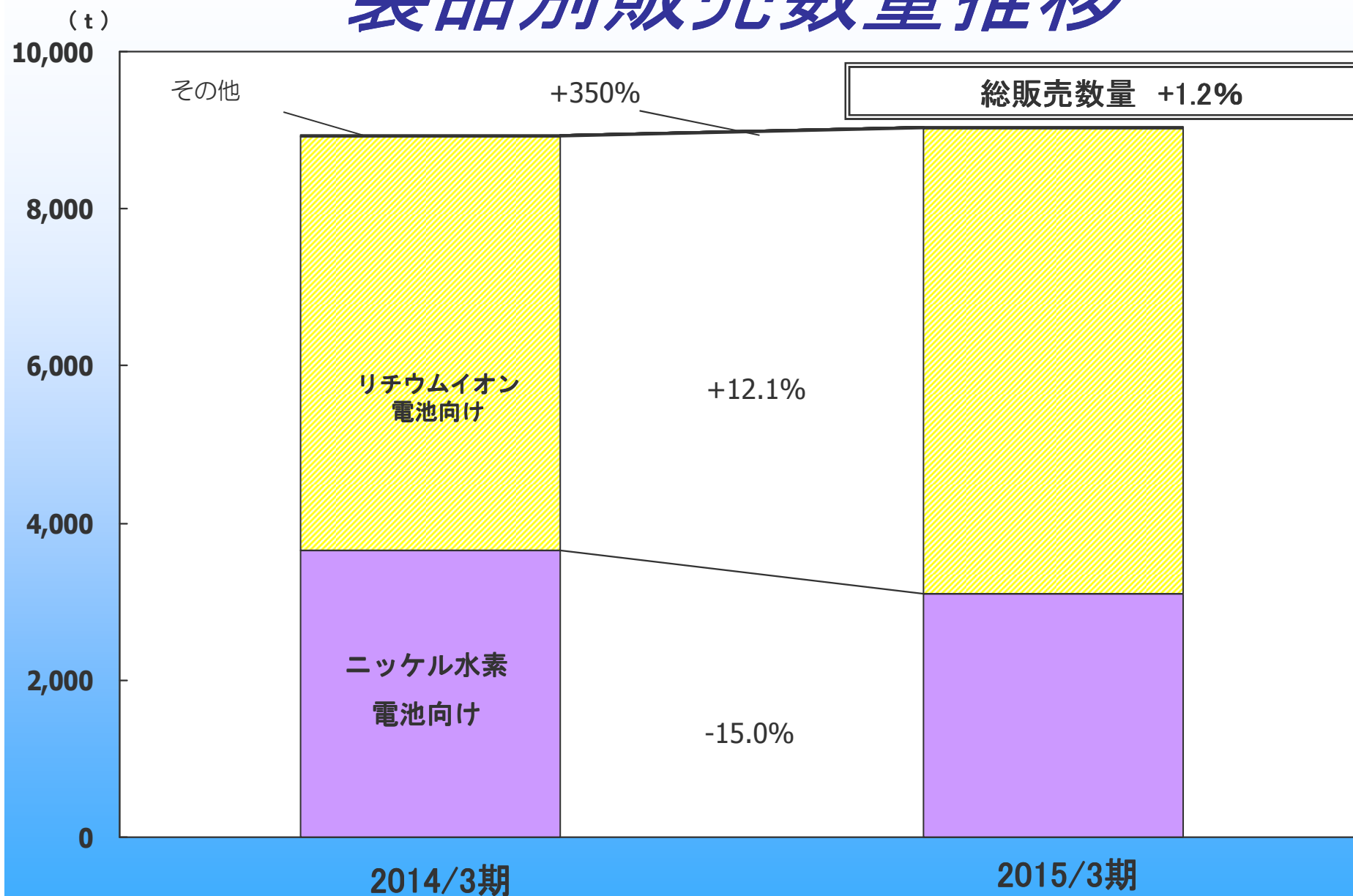
(百万円)

	2015/3期	増 減		2014/3期
売上高	12,384	+1,723	(+16.2%)	10,660
営業利益	▲393	+82		▲476
経常利益	▲660	▲33		▲627
税引前当期純利益	▲2,657	▲1,948		▲709
当期純利益	▲2,663	▲1,948		▲715
EPS(円)	▲188.95	▲137.33		▲51.62
設備投資	1,070	+760	(+245.2%)	310
減価償却費	1,401	+93	(+7.1%)	1,308
期末従業員数	180名	±0名		180名

2015年3月期のトピックス

1. 売上高は前事業年度比16.2%増加の12,384百万円。販売数量は全体で前事業年度比1.2%の増加にとどまる。
2. リチウムイオン電池向けでは、新規用途及び新規顧客向けの販売量が伸長したが、民生用途での第2四半期後半以降の主要顧客における在庫調整や環境対応車用途における自動車メーカーの問題もあって数量ベースで前事業年度比12.1%の増加にとどまる。
3. ニッケル水素電池向けでは民生用途の不振に加えて、環境対応車用途での一過性の減産の影響もあり数量ベースで前事業年度比15%の減少。
4. 住友化学株式会社との資本業務提携強化を目的として平成27年1月15日付にて95万株を追加発行。同社が持株比率14.8%の筆頭株主となる。
5. 環境対応車市場の成長遅延を考慮した結果、取引金融機関のご協力を得てリチウムイオン電池向け正極材料の生産設備を中心とした1,996百万円の減損処理する財務構造改革を実施。シンジケートローン参加各行には財務構造改革の趣旨をご理解いただきローン契約の財務制限条項抵触による期限の利益を喪失させる権利を放棄いただいた。
6. 結果として、償却前営業利益は前事業年度比175百万円増の1,007百万円を計上したにもかかわらず、当期純損失は前事業年度比1,948百万円増加の2,663百万円となった。

製品別販売数量推移



営業外収支および特別損益

(百万円)

	2015/3期	増 減	2014/3期
営業外収支	▲266	▲115	▲150
金融収支	▲112	+23	▲135
その他	▲154	▲139	▲15
経常利益	▲660	▲33	▲627
特別損益	▲1,997	▲1,915	▲81
補助金収入	+63	▲101	+165
固定資産除却損	▲19	+81	▲100
固定資産圧縮損	▲44	+100	▲145
減損損失	▲1,996	▲1,996	0
その他	+0	-0	▲1
税引前当期純利益	▲2,657	▲1,948	▲709
法人税等	+6	+0	+5
当期純利益	▲2,663	▲1,948	▲715

特別損失(減損)の実施

場所	用途	種類	減損損失 (百万円)
福井工場	リチウムイオン 電池向け 生産設備他	土地	234
		建物	33
		機械装置	1,646
		建設仮勘定	83
合 計			1,996

キャッシュフロー計算書

摘 要	2015/3期	(百万円)
I. 営業活動によるキャッシュフロー		
税引前当期純利益	▲2,657	
減価償却費	+1,401	
固定資産除却損	+19	
固定資産圧縮損	+44	
補助金収入	▲63	
減損損失	+1,996	
その他	▲300	
計 (A)	+440	
II. 投資活動によるキャッシュフロー		
有形固定資産の取得	▲457	
補助金収入	+35	
その他	+12	
計 (B)	▲409	
フリーキャッシュフロー(A)+(B)	+31	
III. 財務活動によるキャッシュフロー		
株式の発行	+383	
長期借入金の返済	▲534	
その他	▲11	
計	▲162	
現預金等増減額	▲98	
期末現預金残高	3,346	

比較貸借対照表

(百万円)

	14/3期	15/3期	増減		14/3期	15/3期	増減
流動資産	(8,522)	(8,983)	(+461)	流動負債	(4,527)	(12,331)	(+7,803)
現預金	3,444	3,347	▲97	仕入債務	3,406	3,074	▲331
売上債権	2,647	2,084	▲563	借入金	534	8,001	+7,466
棚卸資産	2,138	2,690	+551	その他	586	1,255	+668
その他	291	861	+570	固定負債	(8,202)	(691)	(▲7,511)
固定資産	(8,012)	(5,649)	(▲2,362)	長期借入金	8,001	—	▲8,001
有形固定資産	7,747	5,308	▲2,438	その他	201	691	+490
無形固定資産	17	18	+0	負債計	12,730	13,022	+292
投資等	247	322	+75	純資産			
				資本金	2,300	2,492	+191
				資本剰余金	2,169	1,646	▲523
				利益剰余金	▲715	▲2,643	▲1,928
				自己株式	▲2	▲2	±0
				評価差額金等	50	117	+67
				(自己資本比率)	(23.0%)	(11.0%)	
				純資産計	3,803	1,610	▲2,193
合計	16,534	14,633	▲1,900	合計	16,534	14,633	▲1,900

2016年3月期予想

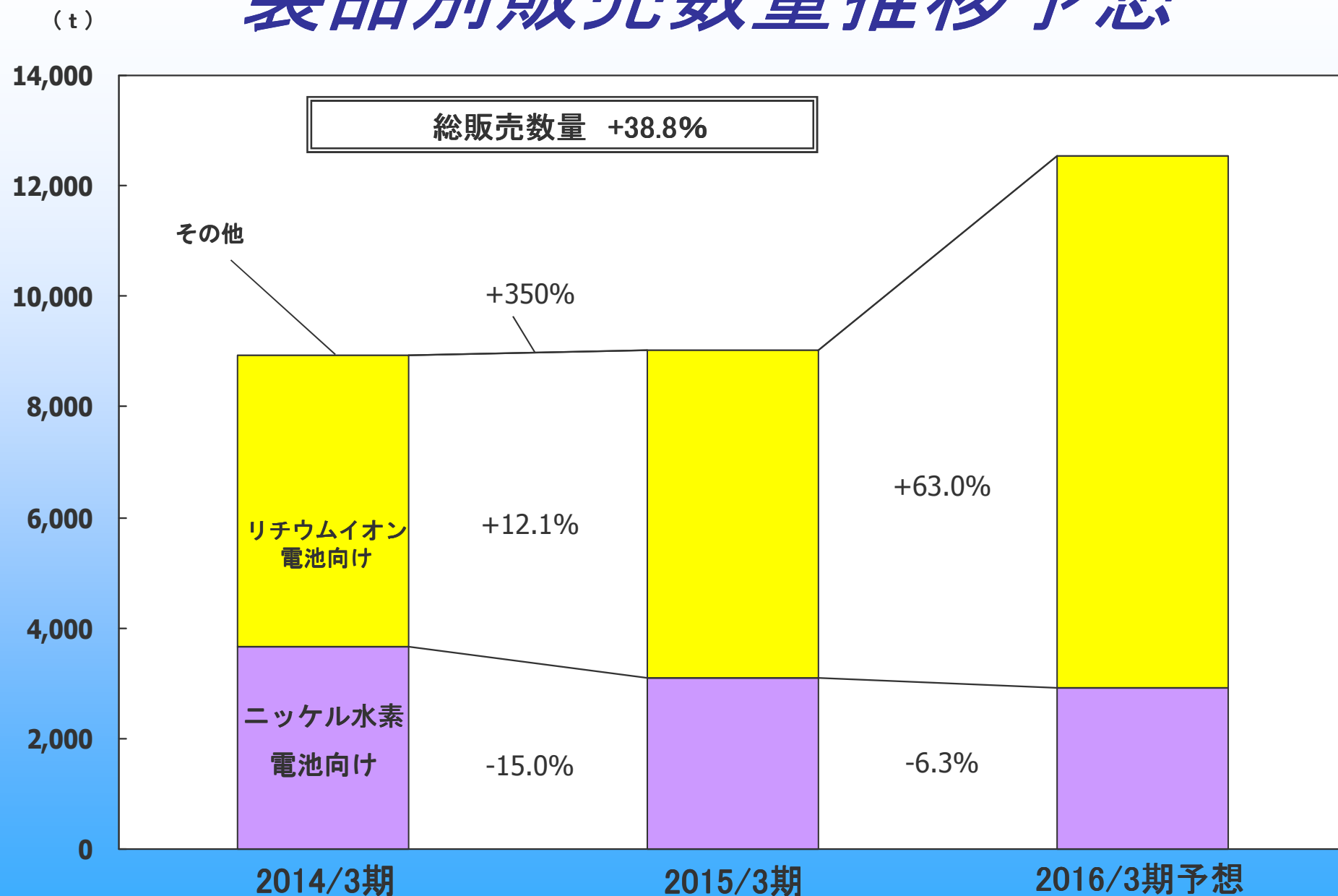
(百万円)

	2016/3期予想	前年比	2015/3期実績
売上高	17,500	+5,116 (+41.3%)	12,384
営業利益	350	+743	▲393
経常利益	150	+810	▲660
当期純利益	920	+3,583	▲2,663
設備投資	500	▲570 (▲53.3%)	1,070
減価償却費	950	▲451 (▲32.2%)	1,401

(5月15日公表ベース)

※業績予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報による判断、仮定及び確信に基づくものであり、今後の経済情勢、事業運営における様々な状況変化によって、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。

製品別販売数量推移予想



2016年3月期業績予想の補足説明

1. 当期の業績予想には、ニッケル・コバルト等の主原料メタル価格の変動要因は織り込んでいません。
2. 数量面では前年比38.8%の増加を計画しております。
特にリチウムイオン電池向け材料では、環境対応車向け事業の拡大と民生向け新規顧客獲得や新規用途への展開を更に進めることによる大幅な増加を見込んでおり、リチウムイオン電池向け材料トータルで前年比63.0%の増加を計画しています。
3. 設備投資につきましては、500百万円を計画しております。
また、減価償却費は950百万円となる見込みです。

業績予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報による判断、仮定及び確信に基づくものであり、今後の経済情勢、事業運営における様々な状況変化によって、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。

主原料国際価格推移

